

農林土木工事施工管理基準

令和 3 年 4 月

静岡県交通基盤部監修

総 目 次

農林土木工事施工管理基準	1 ~ 2
出来形管理基準及び規格値	1 ~ 131
品質管理基準及び規格値	1 ~ 79
写真管理基準	1 ~ 58
その他の取扱基準及び参考資料	1 ~ 125
レディーミクストコンクリート取扱基準	4
セメントコンクリート製品取扱基準	40
盛土材料取扱基準	77
RI計器を用いた盛土の締固め管理基準(案)	89
管水路の通水試験	117
杭の打ち止め管理(参考)	120
(参考資料)ロックボルトの引抜試験	123
(参考資料)ダブルナット(アンカーボルト)の施工について	125
小規模工事事務取扱要領	1 ~ 16
施工管理基準に基づく様式一覧表	1 ~ 40

小規模工事事務取扱要領

目 次

小規模工事事務取扱要領	3
1 目 的	3
2 適用基準	3
3 提出書類	3
4 施工管理	3
5 小額工事における監督員・受注者等	4
「小規模工事(請負代金500万円以上2,000万円未満)の施工計画記入例	5
「少額工事(請負代金500万円未満)の施工計画記入例」	12
資料-1 「工事施工に伴う諸手続き比較表」	16

小規模工事事務取扱要領

1 目 的

この要領は、工事の施工に伴って提出される書類の省略等、諸手続を簡略化し、事業の効率的な執行を図ることを目的とする。

2 適用範囲

- (1) 静岡県（農林土木工事に限る）が施行する当初請負代金額が 2,000 万円未満の土木工事（以下「**小規模工事**」という。）に適用する。
- (2) この要領に記載されていない事項については、**農林土木工事共通仕様書**を適用する。

3 提出書類

- (1) 使用材料の承諾書
受注者の作成する使用材料の**承諾書**は省略することができるものとする。
- (2) 工事記録簿
受注者の作成する**工事記録簿**は省略することができるものとする。
- (3) 材料検査簿
受注者の作成する**材料検査簿**は省略することができるものとする。
- (4) 工程表
受注者の作成する工程表の提出は、静岡県建設工事執行規則第 20 条によるものとする。ただし、当初請負代金額が **500 万円未満**の工事（以下「**少額工事**」という。）については、提出を省略させることができるものとする。
- (5) 現場代理人・主任技術者通知
現場代理人・主任技術者の通知書は、**静岡県建設工事執行規則第 22 条**によるものとする。ただし、少額工事については、通知を省略させることができるものとする。
- (6) 施工計画書
請負人が提出する**施工計画書**は、**農林土木工等共通仕様書第 1 編 1-1-6 施工計画書**によるものとする。
ただし、**少額工事**については、別に定める様式によるものとする。

4 施工管理

- (1) 出来形管理
出来形管理は、**農林土木工事共通仕様書**に定める**出来形管理基準**により行うものとする。
ただし、**少額工事**については、出来形図又は数量計算表を提出することによりこれに代えることができるものとする。
- (2) 品質管理

品質管理は、**農林土木工事共通仕様書**に定める**品質管理基準**により行うものとする。

ただし、**少額工事**については、受注者の自主管理とし、資料の提出は省略できるものとする。

(3) 写真管理

写真管理は、**農林土木工事共通仕様書**に定める**写真管理基準**により行うものとする。

ただし、完成検査写真の提出は省略できるものとする。

なお、**少額工事**については、次によるものとする。

ア 着手前及び完成時の写真

イ 完成時に確認が困難なものの寸法等の写真

5 少額工事における監督員・受注者等

監督員は、受注者が工事の施工に当たって自主管理体制（工程、出来形、品質、写真、交通、安全等）を確立し、施工管理に当たるよう指導するものとする。

受注者は、工事の施工に当って自主管理体制を確立し、施工管理に責任を持つものとする。

また、工事の施工に当たり疑義が生じた場合には、監督員と**協議**するものとする。

なお、自主管理とは、受注者が工事目的物の品質、精度を完全なものとするため、農林土木工事共通仕様書の規格に適合するよう、社内検査を行う等、自らが管理（コントロール）することをいう。

「小規模工事（当初請負代金額 500 万円以上 2, 000 万円未満）の施工計画書記入例」

令和 年 月 日

施 工 計 画 書

総括監督員

様

受注者

現場代理人

令和 年度 工事 施工計画書について（提出）

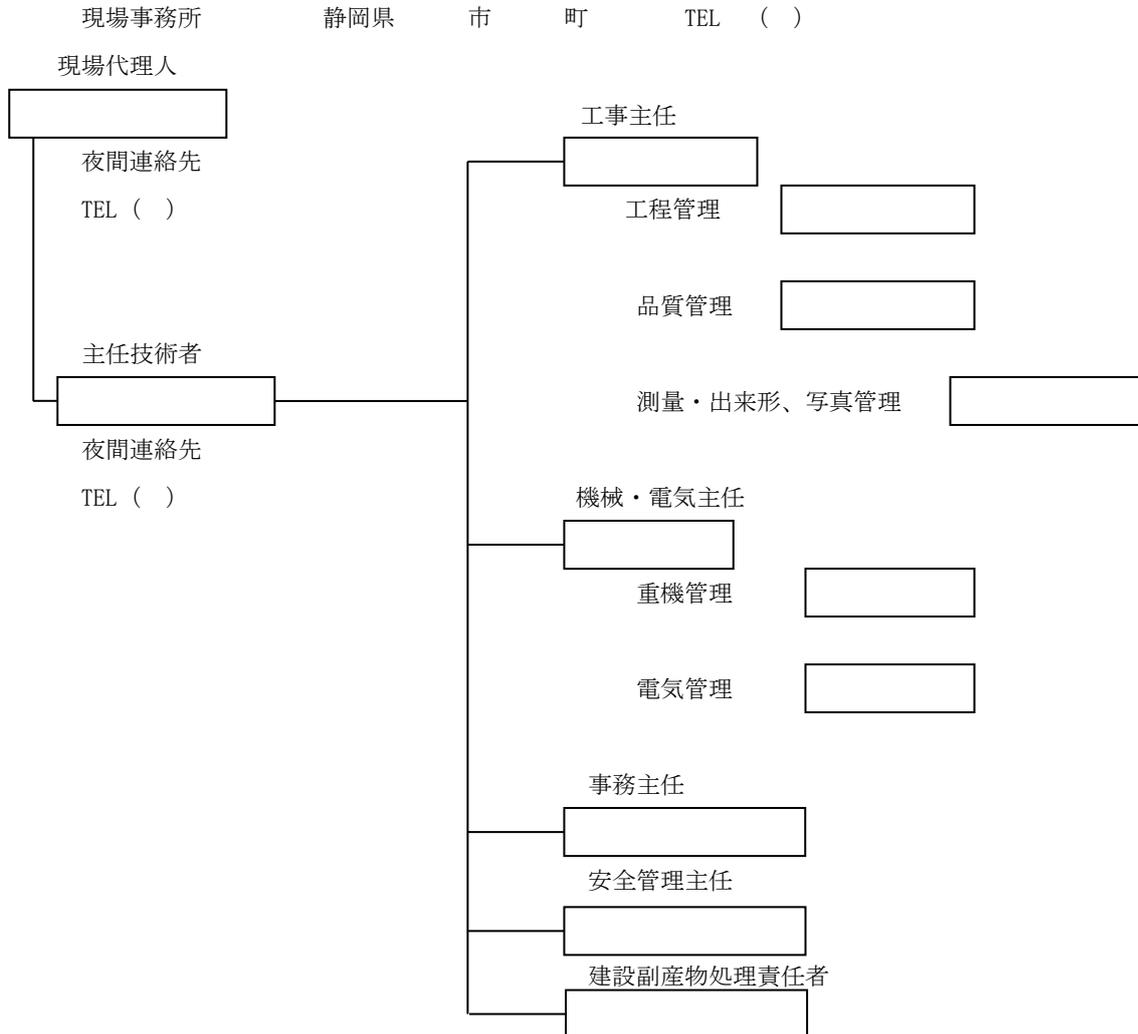
標記について農林土木工事共通仕様書 第 1 編 1-1-6 第 1 項に基づき提出します。

目 次

- 1. 現場組織表…………… ○
- 2. 安全管理…………… ○
- 3. 緊急時の体制…………… ○
- 4. 交通管理…………… ○
- 5. 主要資材一覧表…………… ○
- 6. 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法…………… ○

※工程表については執行規則第 20 条による

1 現場組織表

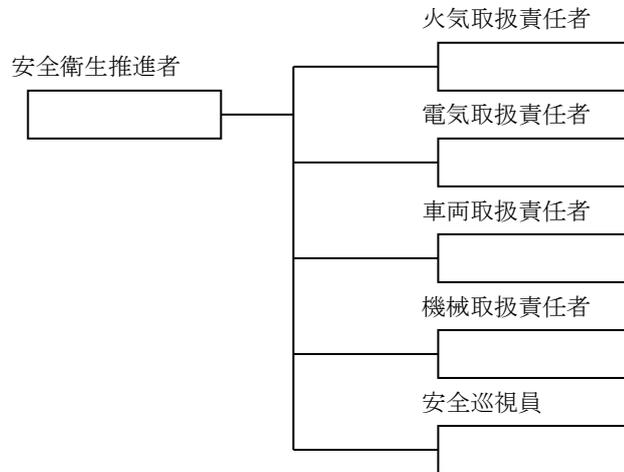


2 安全管理

- (1) 工事現場における作業員の安全と健康を確保し、快適な作業環境の形成を促進するため、工事の安全に留意し、現場を管理し、労働災害の防止に努めるため、安全衛生推進者を選任し、労働者に対する安全指導を徹底し、各人の責任体制の確立を図るとともに、作業規則の浸透に努め、規則に則った標準作業をする。
- (2) 公害、第三者に傷害をあたえないよう、社会的責任体制の確立を図る。
 - ・ 現場内へは一般者の立入りを禁止すると共に通学時の児童・生徒への安全を図るように注意し、立看板を設置する。
 - ・ 現場内の整理整頓に努めると共に安全管理日誌による機械器具及び車両の点検、保安帽の着用、また定期的に安全巡視員にパトロールさせる等安全管理に関する指導を徹底する。

(安全委員会の構成)

現場規模 10～49 人の場合



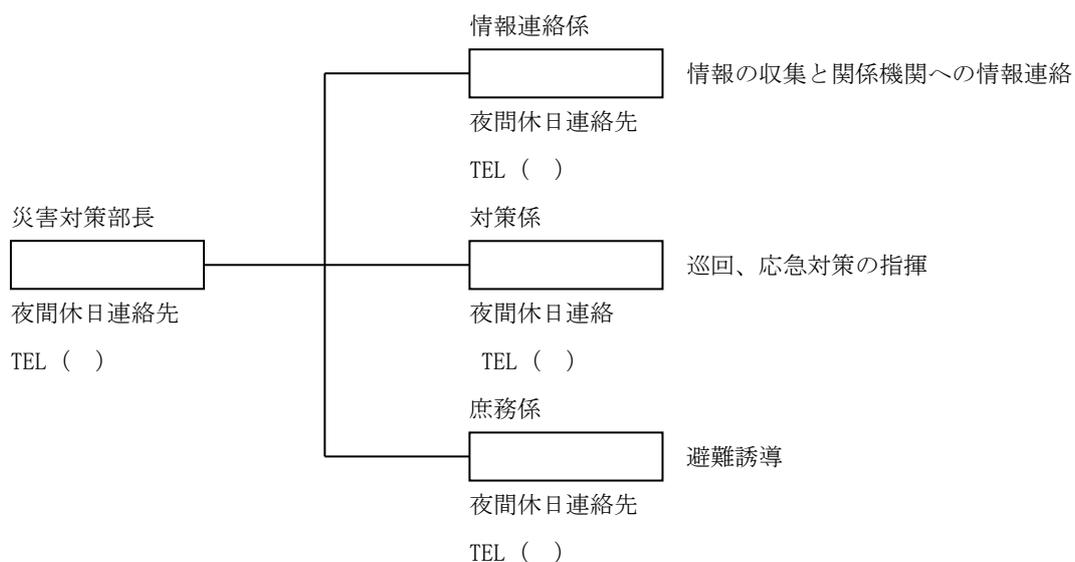
(3) 事故発生時における連絡系統は、3の(2)に定める緊急時の連絡系統図と同じとする。

3 緊急時の体制

(1) 大雨、出水、強風等の異常気象で災害発生のおそれがある場合、次の組織構成で体制に入り必要に応じ現場内をパトロールし、警戒する。

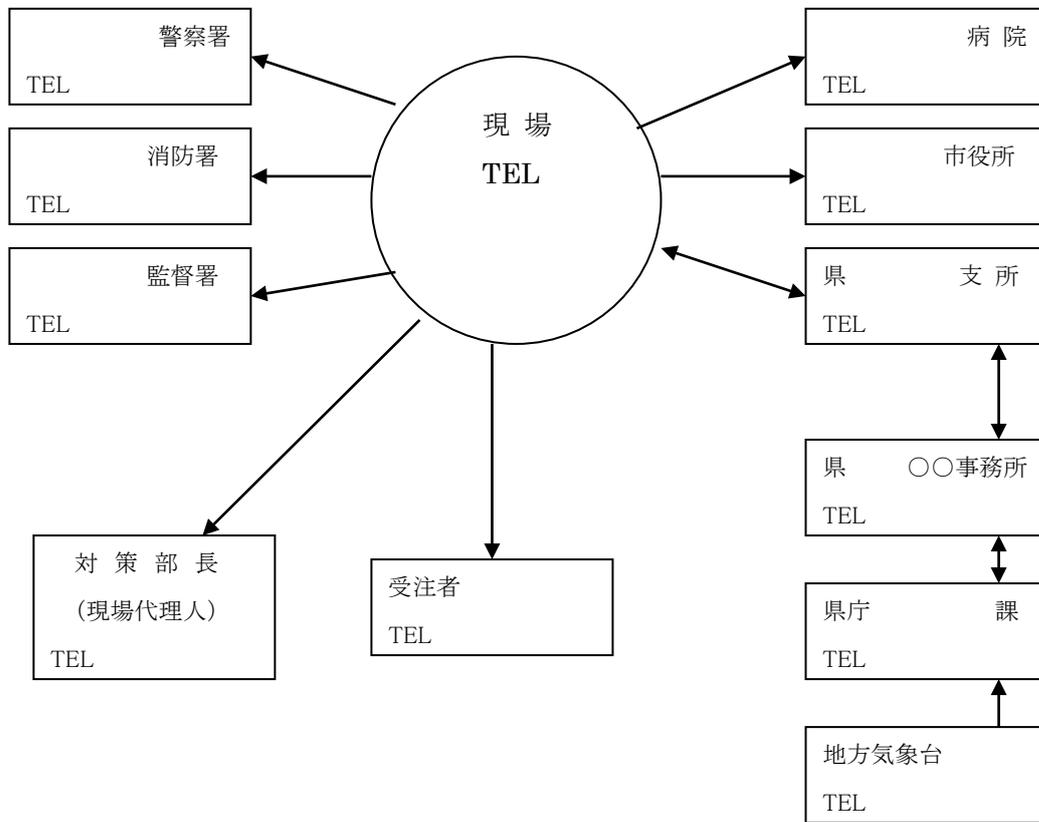
なお、異常時に備え現場には土のう、工具、照明器具等を常備する。また、作業現場内において事故発生、又はそのおそれがある場合、作業時間内はただちに体制に入り現場代理人以下現場構成表の各担当職務に応じて行動する。

(緊急時の体制)



(2) 作業現場内の事故発生時における連絡系統及び夜間又は休日における連絡方法は次のとおりとする。

(緊急時の連絡系統図)



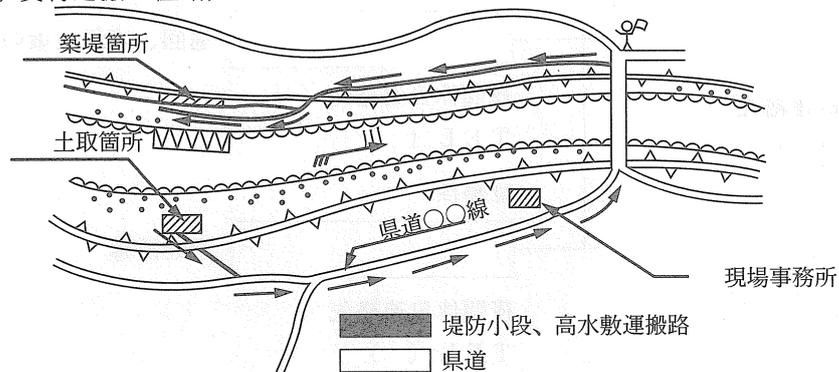
4 交通管理

- ・ 道路交通関係法令及び共仕第1編 1-1-39の交通安全管理に関する各項を厳守し現場安全管理者の指示のもとに事故のないよう特に注意する。また、残土運搬、盛土運搬、資材運搬の経路は図-1のとおりである。

なお、残土運搬中一般道路を通過するため一般通行を優先し通行に支障のないよう十分注意し、誘導員と各種標識類を配置する。

図-1 位置図等

(残土運搬、資材運搬の径路)



5 主要資材一覧表

品 名	規格・寸法	購 入 会 社 名
コンクリート	18-8-40	
	21-8-25	
積ブロック	控 35cm	
切込み砕石	RC-40	
溝 蓋	車道 t=13cm	

6 再生資源の利用の促進

受注者は、建設副産物適正処理推進要綱（国土交通事務次官通達、平成 14 年 5 月 30 日）、再生資源の利用の促進について（建設大臣官房技術審議官通達、平成 3 年 10 月 25 日）、建設汚泥の再生利用に関するガイドライン（国土交通事務次官通達、平成 18 年 6 月 12 日）を遵守して建設副産物の適正な処理及び再生資源の活用を図らなければならない。（農林土木工事共通仕様書第 1 編共通編 1-1-21 建設副産物）

再生資源利用計画書

施 工 計 画 書

工事名

1 現場組織表

連絡先

受注者
TEL ()
夜間 TEL ()

現場代理人
T E L ()
夜間 TEL ()

2 安全管理

* 工事現場における作業員の安全と第三者に対する災害の絶無を図る。

なお、事故発生時の対応として連絡系統を明確にしておく。

* 農林土木工事共通仕様書第 1 編 1-1-39 の交通安全管理に関する各項を厳守して事故の無いよう十分注意する。

3 計画工程表

着手 令和 年 月 日 完成 令和 年 月 日

工 種	単 位	数 量	月	月	月	備 考
準 備 工	式	1				
土 工	式	1				
側 溝 工	m	45				
路 側 工	m	45				
後 片 付	式	1				

4 主要資材一覧表

品 名	規格・寸法	購 入 会 社 名
コンクリート	18-8-40	
	21-8-25	
積ブロック	控 35cm	
切込み砕石	RC-40	
溝 蓋	車道 t=13cm	

5 再生資源の利用の促進

受注者は、建設副産物適正処理推進要綱（国土交通事務次官通達、平成 14 年 5 月 30 日）、再生資源の利用の促進について（建設大臣官房技術審議官通達、平成 3 年 10 月 25 日）、建設汚泥の再生利用に関するガイドライン（国土交通事務次官通達、平成 18 年 6 月 12 日）を遵守して建設副産物の適正な処理及び再生資源の活用を図らなければならない。（農林土木工事共通仕様書第 1 編共通編 1-1-21 建設副産物）

再生資源利用計画書

様式1

再生資源利用計画書(実施書) ー建設資材搬入工事用ー

ー「建設リサイクルガイドライン」様式ー

1. 工事概要

発注機関名	発注担当者	発注担当者アソシエイト	請負会社名	請負会社コード
市区町村	都道府県	市町村	建設現場所在地	建設現場所在地
工事種別	工事種別	工事種別	建設現場所在地	建設現場所在地
工事概要	工事概要	工事概要	建設現場所在地	建設現場所在地

表面

発注機関コード	請負会社コード	建設現場コード	建設現場コード
建設現場所在地	建設現場所在地	建設現場所在地	建設現場所在地
建設現場所在地	建設現場所在地	建設現場所在地	建設現場所在地
建設現場所在地	建設現場所在地	建設現場所在地	建設現場所在地

2. 建設資材利用計画(実施)

注:コード*5~8は下記欄外のコードより数字を選んでください。

分類	小分類	現物	主な利用用途	利用量(A)	再生資材の供給元施設、工事等の名称	再生資材の供給元場所住所	再生資材の名称	再生資材利用量(B)	再生資源	利用率
特定建設資材	コンクリート			トン				トン	%	
	コンクリート			トン				トン	%	
	コンクリート			トン				トン	%	
	コンクリート			トン				トン	%	
その他の建設資材	土砂			トン				トン	%	
	土砂			トン				トン	%	
	土砂			トン				トン	%	
	土砂			トン				トン	%	

再生資材の供給元施設、工事等の名称

1. 再生資材(ボート除漆) 2. 再生木質ボード

3. 再生木質ボード 4. 再生木質ボード

5. 再生木質ボード 6. 再生木質ボード

7. 再生木質ボード 8. 再生木質ボード

9. 再生木質ボード 10. 再生木質ボード

再生資材の供給元場所住所

1. 再生資材(ボート除漆) 2. 再生木質ボード

3. 再生木質ボード 4. 再生木質ボード

5. 再生木質ボード 6. 再生木質ボード

7. 再生木質ボード 8. 再生木質ボード

9. 再生木質ボード 10. 再生木質ボード

再生資材の名称

1. 再生資材(ボート除漆) 2. 再生木質ボード

3. 再生木質ボード 4. 再生木質ボード

5. 再生木質ボード 6. 再生木質ボード

7. 再生木質ボード 8. 再生木質ボード

9. 再生木質ボード 10. 再生木質ボード

再生資材利用量(B)

1. 再生資材(ボート除漆) 2. 再生木質ボード

3. 再生木質ボード 4. 再生木質ボード

5. 再生木質ボード 6. 再生木質ボード

7. 再生木質ボード 8. 再生木質ボード

9. 再生木質ボード 10. 再生木質ボード

再生資源

1. 再生資材(ボート除漆) 2. 再生木質ボード

3. 再生木質ボード 4. 再生木質ボード

5. 再生木質ボード 6. 再生木質ボード

7. 再生木質ボード 8. 再生木質ボード

9. 再生木質ボード 10. 再生木質ボード

利用率

1. 再生資材(ボート除漆) 2. 再生木質ボード

3. 再生木質ボード 4. 再生木質ボード

5. 再生木質ボード 6. 再生木質ボード

7. 再生木質ボード 8. 再生木質ボード

9. 再生木質ボード 10. 再生木質ボード

「工事施工に伴う諸手続き比較表」

契約図書に必要な項目	適用規則等	静岡県建設工事執行規則 の運用（500万円未満）	小規模工事事務取扱要領	
			（500万円以上2,000万円未満）	（小額工事500万円未満）
1 工程表	執行規則第20条	打合せに基づき管理することができる。	提出	省略
2 工事工程月報	執行規則第20条	省略させることができる	提出	省略
3 請負代金内訳表	執行規則第20条		提出	提出
4 主任技術者 現場代理人等通知	執行規則第22条	口頭による通知	提出	口頭による通知
5 施工計画書 （15項目）	仕様書第1編 1-1-6		提出（6項目） （記入例）参照	提出（5項目） （記入例）参照
6 交通安全管理	仕様書第1編 1-1-39		必要時	必要時
7 数量の算出 及び工事完成図	仕様書第1編 1-1-23 仕様書第1編 1-1-26		必要時	必要時
8 材料検査簿	執行規則第24条		省略	省略
9 使用材料品質証 明書	仕様書第2編 1章2節		提出	省略
10 休日・夜間作業届	仕様書第1編 1-1-43		必要時	必要時
11 施工管理	仕様書第1編 1-1-30			
出来形管理	施工管理基準		提出	面積計算書又は出来形図
品質管理	施工管理基準		提出	自主管理、提出省略
写真管理	施工管理基準		提出	着手前と完成時
12 再生資源利用計 画書	仕様書第1編 1-1-21		提出	提出
13 完成届出書	執行規則第39条		提出	提出
14 工事記録簿	執行規則第22条の2		省略	省略
15 完成検査写真帳			省略	省略

施工管理基準に基づく様式一覧表

様式番号	品 名
(出 来 形 管 理)	
1	出来形管理表 (表紙)
2-1	出来形管理表・測定結果一覧表
2-2	測定結果一覧表
3	出来形管理表 (図表)
4	度数表
(品 質 管 理)	
5	品質管理表 (表紙)
6	調査結果総括表
7-1	現場密度測定試験 (置換法)
7-2	" (突砂法)
8	道路の平板載荷試験
9	ブルーフローリング試験
10-1	現場における土の乾燥単位体積重量測定用紙
10-2	下層路盤用クラッシャーランの粒径加積曲線図
10-3	上層路盤用粒調碎石の粒径加積曲線図
11-1	アスファルト合材の管理試験
11-2	基準密度測定表
11-3	配合設計決定表
12	アスファルトの抽出試験 (ソックスレー法)
13	密度及び厚さの測定表
14	まだ固まらないコンクリートの洗い分析試験
(品 質 管 理 デ ー タ シ ー ト)	
15-1	\bar{x} -R管理データシート (1)
15-2	" (1) の2
15-3	\bar{x} -R管理図 (1)
15-4	x-Rs-Rm管理データシート
15-5	" の2
15-6	x-Rs-Rm管理図
16-1~8 参考1から参考4	継手チェックシート
17	鉄筋(ロックボルト工)挿入確認記録表

様式 1

建設工事名

工出来形管理表

種目

受注者名

建設工事名

工出来形管理図表

受注者名

測定者

測点番号	月	日
設計値との差(mm)		
記	事	

様式 5

建設工事名

工 品 質 管 理 表

(7)

種 目

受注者名

調査結果総括表

調査名

調査場所

	調査No。	
試験名		
採取深度cm		
統一分類記号		
名称		
粒 度 分 析	礫 分 %	
	砂 分 %	
	細 粒 分 %	
	60 % 径 mm	
	30 % 径 mm	
	10 % 径	
	フルイ通過率 %	4.75mm
		2.36mm
		0.425mm
		0.075mm
	均等係数 Cu	
	曲率係数 Cc	
物 理 試 験	含 水 比 %	
	液性限界 LL %	
	塑性限界 PL %	
	塑性指数 PI	
変 状 土 C B R	突固め回数	1
	67 回	2
		平均
	C B R %	
修 正 C B R 試 験	最適含水比 %	
	最大乾燥密度g/cm ³	
	最大乾燥密度の95%	
	突固め回数	17回
		42回
		92回
	修正 C B R %	

現場における土の置換法による単位体積重量の測定

調査名、目的		試験日程		年	月	日
測定箇所および測点番号		試験者				
土の最大粒径		mm	測定器番号			
測定器の体積		cm ³	測定器の重量		g	
I 試験用砂の単位体積重量の検定						
測定番号		1	2	3	4	5
ジャーとピクノメータトップに砂を満たした重量W _{js}		g				
測定器全体の重量W _j		g				
満たした砂の重量 (W _{js} -W _j)		g				
ジャーとピクノメータトップとの体積V _j		cm ³				
試験用砂の単位体積重量 r _{st}		g/cm ³				= g/cm ³
II ロト (ベースプレートを含む) を満たすに要する砂の重量検定						
測定番号		1	2	3	4	5
ジャーとピクノメータトップに砂を満たした重量W _{js}		g				
ロトを満たした砂を除きジャーに残った砂の重量W _{j2}		g				
ロトを満たした砂の重量 (W _{j3} -W _{j2}) = W _{jf}		g				= g
III 試験孔からとり出した土の湿潤重量、含水比および乾燥重量の測定						
試験孔の番号	湿潤土および乾燥土重量の測定		含水比の測定			
~ 1	容器 (バケツ) の番号		試料箱No.	No.	No.	
	(湿土+バケツ) の重量		WW	DW	WW	DW
	容器 (バケツ) の重量		DW	TW	DW	TW
	湿潤土の重量W _{wA}		Ww	Ws	Ww	Ws
	乾燥土の重量W _v		w = %		w = %	
		平均含水比		w = %		
~ 2	容器 (バケツ) の番号		試料箱No.	No.	No.	
	(湿土+バケツ) の重量		WW	DW	WW	DW
	容器 (バケツ) の重量		DW	TW	DW	TW
	湿潤土の重量W _{wA}		Ww	Ws	Ww	Ws
	乾燥土の重量W _v		w = %		w = %	
		平均含水比		w = %		
~ 3	容器 (バケツ) の番号		試料箱No.	No.	No.	
	(湿土+バケツ) の重量		WW	DW	WW	DW
	容器 (バケツ) の重量		DW	TW	DW	TW
	湿潤土の重量W _{wA}		Ww	Ws	Ww	Ws
	乾燥土の重量W _v		w = %		w = %	
		平均含水比		w = %		
試験孔番号		~ 1	~ 2	~ 3	(予備欄)	
ジャーとピクノメータトップに砂を満たした重量W _{j3}		g				
ジャーに残った砂の重量W _{j3}		g				
試験孔およびロトに入った砂の重量 (W _{j3} -W _{j3})		g				
試験孔に入った砂の重量 (W _{j3} -W _{j3}) - W _{jf}						
試験孔の体積		V cm ³				
試験孔番号		~ 1	~ 2	~ 3	平均した砂の単位体積重量	
土の湿潤単位体積重量 r _t		g/cm ³			r _t = g/cm ³	
土の乾燥単位体積重量 r _d		g/cm ³			r _d = g/cm ³	
(備考)						
I 砂の単位体積重量: r _{st} = $\frac{(W_{j3}-W_j)}{V}$		III 乾燥土重量: W _v = $\frac{W_{wA} \times 100}{100+w}$				
IV 試験孔の体積: V = $\frac{(W_{j2}-W_{j3}) - W_{jf}}{r_{st}}$		V 土の湿潤単位体積重量: r _t = $\frac{W_{wA}}{V}$				
		土の乾燥単位体積重量: r _d = $\frac{W_v}{V}$				

		現場密度測定試験 (突砂法)		報告用紙	
建設工事名		試験日		年	月 日
建設工事場所		天 候			
工 種		試験者			
使用材料名					
		測 定 番 号			
① 砂の単位体積重量		g / cm ³			
掘り取った穴の容積	② 試験前の砂の重量	(g)			
	③ 試験後の砂の重量	(g)			
	④ ベースプレスト中の砂の重量	(g)			
	⑤ 穴につめた砂の重量 (②-③-④)	(g)			
	⑥ 掘り取った穴の容積 (⑤/①)	(cm ³)			
湿潤密度	⑦ (湿潤試料+容器)重量	(g)			
	⑧ 容 器 の 重 量	(g)			
	⑨ 湿潤試料重量 (⑦-⑧)	(g)			
	⑩ 湿潤密度 (⑨/⑥)	(g/cm ³)			
含水比及び乾燥密度	⑪ (乾燥試料+容器)重量	(g)			
	⑫ 容器の重量	(g)			
	⑬ 乾燥試料重量 (⑪-⑫)	(g)			
	⑭ 全体含水量 (⑨-⑬)	(g)			
	⑮ 全体含水比 (⑭/⑬×100)	(%)			
	⑯ 乾 燥 密 度 r d	(g/cm ³)			
⑰ 最大乾燥密度 r d	(g/cm ³)				
⑱ 締固め度 (⑯/⑰×100)	(%)				
⑲ 締固め度平均	(%)				
備 考					

道路の平板載荷試験 (JIS A 1215)

建設工事名

工 種 名

測定番号

測定箇所

試験期日

路面の状態

載荷盤直径

年 月 日

天候

受注者名

測 定 者

載荷盤面積

荷 重 kg/	沈下量ダイヤルゲージの読み 1/100mm			平均値
	左	中	右	
全荷重				
0.250	0.354			
0.500	0.708			
0.750	1.062			
1.000	1.415			
1.250	1.769			
1.500	2.123			
1.750	2.477			
2.000	2.831			
2.250	3.185			
2.500	3.539			
2.750	3.892			
3.000	4.246			

$$K_{30} = \frac{\text{沈下量 (cm)}}{\text{荷重 (kg/cm}^2\text{)}} = \frac{K_{75}}{2.2} = \frac{K_{30}}{2.2} \text{ kg/cm}^2$$

5.662

5.308

4.954

4.600

4.246

3.892

3.539

3.185

2.831

2.477

2.123

1.769

1.415

1.062

0.708

0.354

0

0

↑ 荷重増大 (kg/cm²)

沈 下 量 (cm)

22

20

18

16

14

12

10

8

6

4

2

44

42

20

40

38

18

36

34

16

32

30

14

28

26

12

0.10

0.15

0.20

0.25

0.30

様式 9

プルーフローリング試験

建設工事名

受注者名

工種名

測定者

項目	事項				備考
試験条件	天候		測定面の含水状況		
試験区間	No.		~No.		
載荷車	型式		接地圧		
載荷状況	予備載荷回数		回	本載荷速度	km/h

試験結果							
視察展開図	No.						
	No.						
視察記事							
異状箇所の処置							

		現場における土の乾燥単位体積重量測定用紙			記録用紙	
測定者		測定日		年	月	日
調査名・目的		使用材料名		産		
施工場所						
測定場所	工種区分					
	測定番号					
	転圧作業日					
砂体の積単重量	① キャリブレーション容器の重量 (g)					
	② キャリブレーション容器に砂を満たしたときの重量 (g)					
	③ 砂の単位体積重量 $\frac{②-①}{\text{キャリブレーション容器}}$ (g/cm ³)					
掘り取った穴の容積	④ 試験前 (砂+キャリブレーション容器) 重量 (g)					
	⑤ 試験後 (" + ") " (g)					
	⑥ ベースプレート中の砂の重量 (g)					
	⑦ 穴につめた砂の重量 (④-⑤-⑥) (g)					
	⑧ 掘り取った穴の容積 $\frac{⑦}{③}$ (cm ³)					
湿潤密度	⑨ (湿潤試料+容器) 重量 (g)					
	⑩ 容器の重量 (g)					
	⑪ 湿潤試料の重量 ⑨-⑩ (g)					
	⑫ 湿潤密度 $\frac{⑪}{⑧}$ γ_t (g/cm ³)					
含水比及乾燥密度	⑬ (乾燥試料+容器) 重量 (g)					
	⑭ 容器の重量 (g)					
	⑮ 乾燥試料重量 ⑬-⑭ (g)					
	⑯ 全体含水量 ⑮-⑪ (g)					
	⑰ 全体含水比 $\frac{⑯}{⑮} \times 100$ (%)					
	⑱ 乾燥密度 $\frac{⑮}{⑧}$ (g/cm ³)					
	⑲ 最大乾燥密度 γ_d (g/cm ³)					
	⑳ 締固め度 $\frac{⑱}{⑲}$ (%)					
	平均値					

上層路盤用粒調碎石の粒径加積曲線図		試験 報告 用紙													
試料番号	粒調碎石の産地	産													
調査名・目的	粒調碎石の規格	M-30													
試料採取場所	ふるい分け試験番号データシート	No. _____ ※印の粒径について、ふるい分け試験を行なう。													
<p>試験年月日 年 月 日</p> <p>作成者</p>															
通過重量百分率 %	200 100 80 50 40 30 20 16 8 4	3/8 1/2 3/4 1 1/4 (in)													
	JISA 1203 土の含水量試験 報告用紙	フルイ目の呼び寸法 mm													
	試料は1.5kgとする	通過重量百分率 (%)													
	$\frac{W.W. - D.W.}{D.W. - T.W.} \times 100 = \frac{W.w}{W.s} \times 100 = \text{含水比} (\%)$	粒度範囲													
	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">WW測定日時 試料番号</td> <td style="width: 30%;">含水比の測定</td> <td style="width: 40%;">含水比</td> </tr> <tr> <td>月 日 時 試料番号</td> <td> <table style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">No.</td> <td style="width: 50%;">%</td> </tr> <tr> <td>DW</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TW</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Ws</td> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	WW測定日時 試料番号	含水比の測定	含水比	月 日 時 試料番号	<table style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">No.</td> <td style="width: 50%;">%</td> </tr> <tr> <td>DW</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TW</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Ws</td> <td></td> </tr> </table>	No.	%	DW		TW		Ws		37.5 100
	WW測定日時 試料番号	含水比の測定	含水比												
	月 日 時 試料番号	<table style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">No.</td> <td style="width: 50%;">%</td> </tr> <tr> <td>DW</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TW</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Ws</td> <td></td> </tr> </table>	No.	%	DW		TW		Ws						
	No.	%													
	DW														
	TW														
Ws															
	31.5 ※ 95~100														
	26.5														
	19.0 ※ 60~90														
	4.75 30~65														
	2.36 ※ 20~50														
	1.18														
	0.425 10~30														
	0.075 ※ 2~10														
	フルイ目の開き														

基準密度測定表										
路線名			工事施工個所				試験者			
供試体 番号	混合率 %	成型 月日	試験 月日	厚さの測定		基準密度の測定				備考
				厚さ cm	平均 cm	A gr	B gr	C gr	$\frac{A}{B-C}$	
										6 個の平均値

A : 供試体の乾燥重量 (gr)

B : 水中測定後供試体表面の水分をぬぐいとったときの空中重量 (gr)

C : 供試体の水中重量 (gr)

配 合 設 計 決 定 表

建設工事名：

建設工事場

所：合材種

別：

安 定 度	kg	
フ ロ ー 値	1/100cm	
空 隙 率	%	
飽 和 度	%	
基 準 ア ス フ ァ ル ト 量	%	
基 準 密 度	g/cm ³	
粒 度	26.5m/m	%
	19.0 "	%
	13.2 "	%
	4.75 "	%
	2.36 "	%
	0.6 "	%
	0.3 "	%
	0.15 "	%
	0.075 "	%

アスファルトの抽出試験 (ソックスレー法)		試験 報告 用 紙			
建設工事名	_____	試年月日	_____年	_____月	_____日
工事施工箇所	_____	測定者	_____		
混合物の種類	_____	ろ過装置の種類	_____		
受注者名	_____	溶剤の種類	_____		
試験測定番号		1	2	3	
① 容器の重量 (g)					
② (容器 + 試料) 重量 (g)					
③ 試料重量 (g)	②-①				
④ 円筒ろ紙の乾燥重量 (g)					
⑤ (抽出後の乾燥骨材 + 容器) 重量 (g)					
⑥ 容器重量 (g)					
⑦ 抽出後の骨材重量 (g)	⑤-⑥				
⑧ 抽出後円筒ろ紙の乾燥重量 (g)					
⑨ 円筒ろ紙に付着したフィルターの重量 (g)	⑧-④				
⑩ 全抽出骨材重量 (g)	⑦+⑨				
⑪ アスファルト重量 (g)	③-⑩				
⑫ アスファルト含有率 (%)	⑪/③×100				
⑬ 平均値	基準値				
抽出骨材のフルイ分け試験 (2.36mm及び0.075mmフルイ通過骨材重量百分率)					
⑭ 容器または0.075 mmフルイの重量 (g)					
⑮ 水洗い前 (骨材+容器または0.075mmフルイ) 重量 (g)	⑦+⑭				
⑯ 水洗い後 (") 乾燥重量 (g)					
⑰ 0.075 mmフルイ通過骨材重量 (g)	⑮-⑯+⑨				
⑱ 0.075 mmフルイ通過重量百分率 (%)	⑰/⑮×100				
⑲ 平均値	基準値				
⑳ 2.36 mmフルイ残留骨材重量 (g)					
㉑ 2.36 mmフルイ通過骨材重量 (g)	⑩-⑳				
㉒ 2.36 mmフルイ通過骨材重量百分率 (%)	㉑/⑩×100				
㉓ 平均値	基準値				

JIS A 1112

まだ固まらないコンクリートの洗い分析試験

建設工事名 _____ 受注者名 _____

工 種 名 _____ 測 定 者 _____

項目		測定番号		
試料の空中重量 (g)				
試料の水中重量 (g)				
試料の総体積 (g)				
砂の水中重量 (g)				
砂利の水中重量 (g)				
砂 の 比 重 (g)				
砂 利 の 比 重 (g)				
試料含有量	セメント (g)			
	砂 (g)			
	砂 利 (g)			
	水 (g)			
単位量換算 (kg/m ³)	セメント量			
	細骨材量			
	粗骨材量			
	単位水量			
	水セメント比 (%)			

[注] 砂：4.75mmフルイを通過し、0.15mmフルイに止まるもの

砂利：4.75mmフルイに止まるもの

\bar{x} -R管理データシート(1)

名称		建設工事名		期間	自	
品質・特性		出張所名			至	
測定単位		日標準量		受注者		
規格	上限値	試大さ		現場代理人		
限界	下限値	料間隔		測定者		
設計基準値		作業機械名		測定者		

月日	組の番号	測定値					計 ΣX	平均値 \bar{X}	範囲 R	$\bar{x} \pm A_2 \cdot \bar{R} =$		
		X_1	X_2	X_3	X_4	X_5				$D_4 \cdot \bar{R} =$	$\bar{R} =$	
	1											
	2											
	3											
	4								平均 $\bar{x} =$	$\bar{R} =$		
	5								累計 $\bar{x} =$			
	小計								小計			
	6									$\bar{x} \pm A_2 \cdot \bar{R} =$		
	7									$D_4 \cdot \bar{R} =$		
	8											
	9								平均 $\bar{x} =$	$\bar{R} =$		
	10								累計 $\bar{x} =$			
	小計								小計			
	11									$\bar{x} \pm A_2 \cdot \bar{R} =$		
	12											
	13											
	14									$D_4 \cdot \bar{R} =$		
	15											
	16											
	17											
	18											
	19								平均 $\bar{x} =$	$\bar{R} =$		
	20								累計 $\bar{x} =$			
	小計								小計			
記事									n	d_2	A_2	D_4
									2	1.13	1.88	3.27
									3	1.69	1.02	2.57
									4	2.06	0.73	2.28
									5	2.33	0.58	2.11

- (注) 1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。
 2. 管理限界線の引き直しは5-5-10-20-20方式による。

- (備考) ー 管理限界の計算のための予備データの区間
 ...上記の管理限界を適用する区間を示す。
3. 21組~40組までは、別に新しいデータシートに記入する。以下20組ごとに同様とする。

\bar{x} -R管理データシート(1)の2

月 日	組の 番号	測 定 値					計 ΣX	平均値 \bar{X}	範囲 R			
		X_1	X_2	X_3	X_4	X_5						
										$\bar{x} \pm A_2 \cdot R =$		
										平 均 $\bar{x} =$		
										小 計		
										累 計		
										平 均 $\bar{x} =$		
										小 計		
										累 計		
記 事									n	d_2	A_2	D_4
									2	1.13	1.88	3.27
									3	1.69	1.02	2.57
									4	2.06	0.73	2.28
									5	2.33	0.58	2.11

(注) 1. 管理限界線の引き直しは5-5-10-20-20方式による。

—.....
 —.....
 —.....
 —.....

(備考) — 管理限界の計算のための予備データの区間

... 上記の管理限界を適用する区間を示す。

2. 以下、最近の20組(平均値 \bar{x} を1箇とする)のデータを用い、の20箇に対する管理限界とする。

x-Rs-Rm管理データシート

名 称		建設工事名				受注者名							
品質・特性		出張所名				測定者							
測定単位		日標準量				測定者							
規格 限界	上限値	試大 大きさ				測定者							
	下限値	料 間 隔				測定者							
設計基準値		作業機械名				測定者							
月 日	試験 番号	測 定 値				計 Σ	平均値 \bar{x}	移動範囲 Rs	測定値内 の範囲 Rm	$\bar{x} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$			
		a	b	c	d					$D_4 \cdot \bar{R}_s =$			
	1								$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	2												
	3												
	4												
	5												
	小計												
	6												
	7												
	8												
	小計												
	9												
	10												
	11												
	12												
	13												
	小計												
	14												
	15												
	16												
	17												
	18												
	19												
	20												
	小計												
記事													

- (注) 1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。
 2. 管理限界線の引き直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

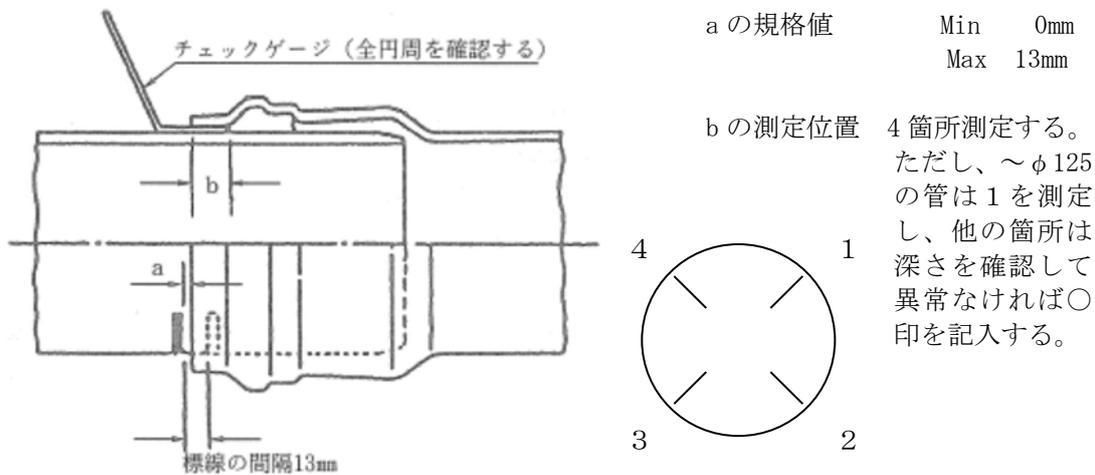
—.....
 —.....
 —.....
 —.....

(備考) — 管理限界の計算のための予備データの区間
 …上記の管理限界を適用する区間を示す。

3. 以下、最近の20組(平均値 \bar{x} を1箇とする)のデータを用い、次の10箇に対する管理限界とする。

RR継手チェックシート

工事名		請負者	
管種・呼び径		図面No.	



管No. 及形状									
略 図									
継手 No.									
面 取 り									
標 線									
清 掃									
滑 剤 塗 布									
受口面一標線間隔 (a)									
受口面ーゴム輪 間 隔 (b)	1								
	2								
	3								
	4								

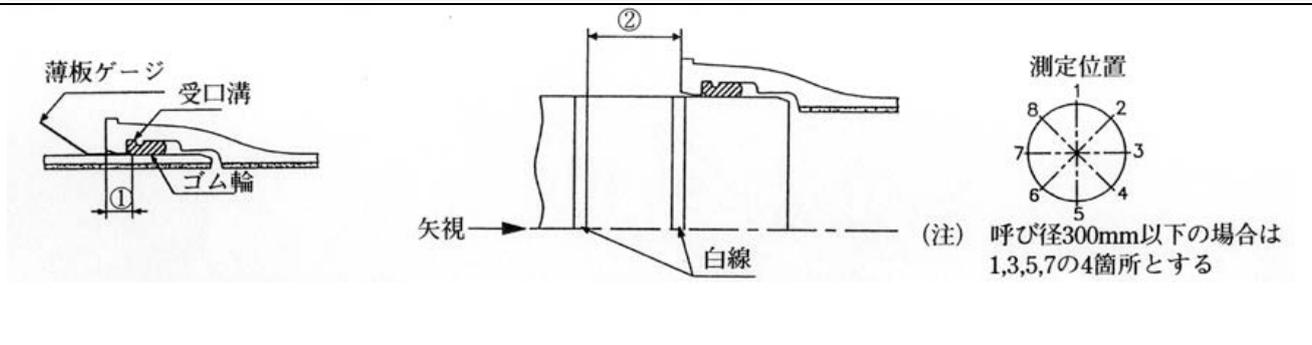
備 考

- 1 測定基準 継手管理…5本に1ヶ所、写真管理…10本に1ヶ所
- 2 受口面～標線間隔 (a) 規格値0～13mmのセンター6～7mmを目標とする。

施工日		測定者		点検者	
年月日					

T形継手チェックシート

工名		請負者	
呼び径・管種	φ	図面No.	
施工日	年月日	測定者	点検者



管 No. および形状							
略 図							

継手 No.							
清掃剤							
受口溝の確認							

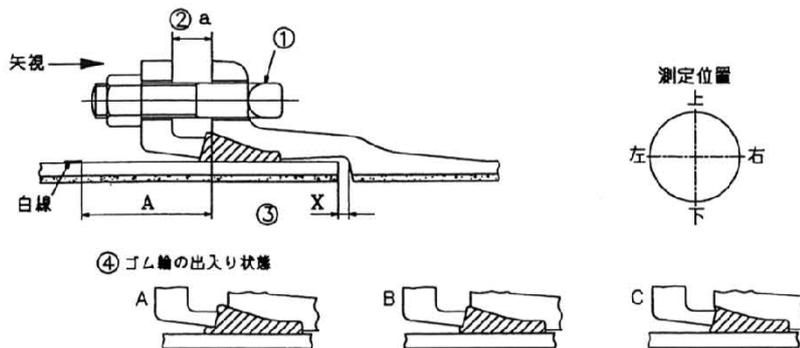
① 受口面ーゴム輪の間隔	1						
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
② 受口面ー白線の間隔	1						
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						

判 定							
-----	--	--	--	--	--	--	--

判定基準 (単位: mm)					
呼び径	②管理基準値	②規格値	呼び径	②管理基準値	②規格値
75	76.0~87.0	76.0~92.0	450	75.0~91.0	75.0~99.0
100	73.0~84.0	73.0~89.0	500	75.0~95.0	75.0~105.0
150	77.0~88.0	77.0~93.0	600	75.0~95.0	75.0~105.0
200	75.0~85.0	75.0~89.0	700	75.0~95.0	75.0~105.0
250	76.0~86.0	76.0~90.0	800	75.0~95.0	75.0~105.0
300	75.0~91.0	75.0~99.0	900	75.0~100.0	75.0~115.0
350	75.0~91.0	75.0~99.0	1000	75.0~100.0	75.0~115.0
400	75.0~91.0	75.0~99.0	1100	75.0~100.0	75.0~115.0

K形継手チェックシート

工事名		請負者	
呼び径・管種	φ	図面 No.	
施工日	年月日	測定者	点検者



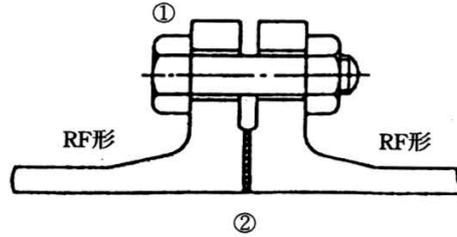
管 No. および形状							
略 図							
継 手 No.							
清 掃							
滑 剤							
①ボルト	数						
	トルク (N・m)						
②押輪－ 受口端面間隔(a)	上						
	右						
	下						
	左						
③受口端面－ 白線の間隔(A) または胴付間隔 (X)	上						
	右						
	下						
	左						
④ゴム輪の 出入状態	上						
	右						
	下						
	左						
判 定							

判定基準

- ②押輪－受口端面の間隔(a) : 最大値－最小値 ≤ 5mm (同一円周上)
- ③受口端面－白線の間隔(A) : 呼び径 75～250mm A ≤ 95mm
呼び径 300～600mm A ≤ 107mm
- または胴付間隔(X) : X ≤ 表2の値
- ④ゴム輪の出入状態 : 同一円周上にA, C または A, B, C が同時に存在しないこと。

大平面座形フランジ継手チェックシート

工事名		請負者	
呼び径・管種	φ	図面 No.	
施工日	年月日	測定者	点検者



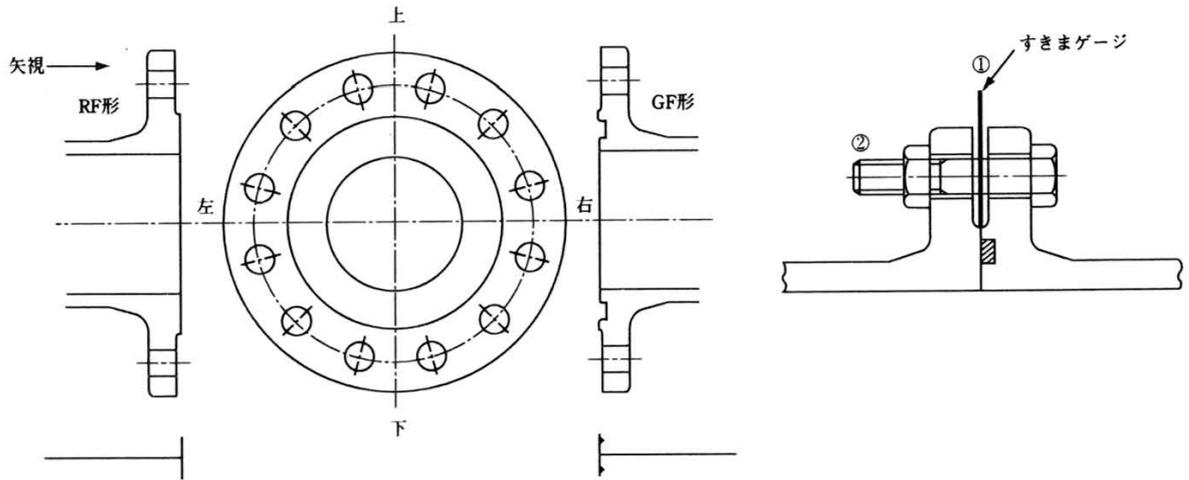
製品名 および形状							
製品 No.							
略 図							
継 手 No.							
清 掃							
①ボルト	数						
	トルク (N・m)						
②ガスケットの位置							
判 定							

判定基準 ①ボルトの締め付けトルク :表3の標準締め付けトルクによる。
 ②ガスケットの位置 :フランジ面が平行にかたよりなく接合されていることおよびガスケットのずれがないこと。

溝形フランジ継手チェックシート (メタルタッチの場合)

工事名		請負者	
呼び径・管種	φ	図面 No.	
施工日	年月日	測定者	点検者

呼び圧力 _____



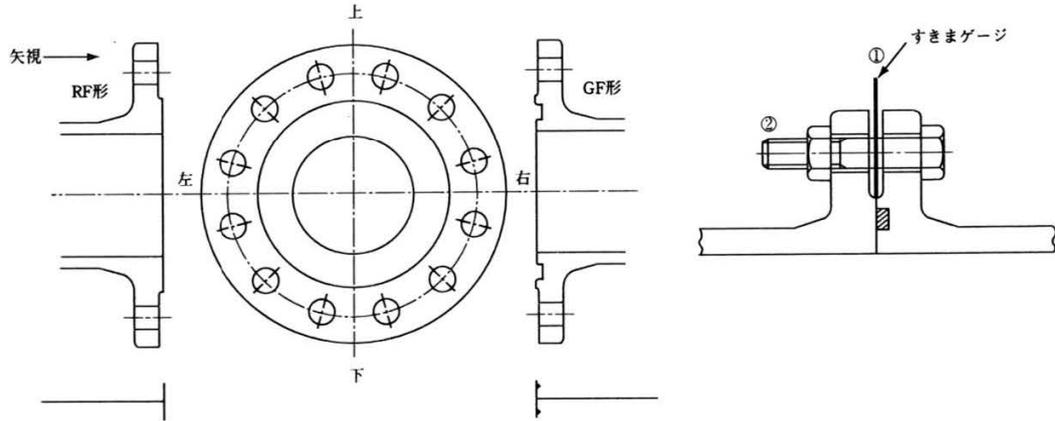
製品名 および形状								
製品 No.								
略 図								
継 手 No.								
清 掃								
接着剤使用の有無								
①すきまゲージ (1mm厚)に よるチェック	上							
	右							
	下							
	左							
②ボルト	数							
	トルク (N・m)							
判 定								

判定基準 ①すきまゲージによるチェック : フランジ面間の1mm厚のすきまゲージが入らないこと。
 ②ボルトの締め付けトルク : 60N・m以上

溝形フランジ継手チェックシート
(メタルタッチでない場合)

工事名		請負者	
呼び径・管種	φ	図面 No.	
施工日	年月日	測定者	点検者

呼び圧力 _____



製品名 および形状									
製品 No.									
略 図									
継 手 No.									
清 掃									
接着剤使用の有無									
①すきまゲージ (上限用と下限用) によるチェック	上								
	右								
	下								
	左								
②ボルト	数								
	ゆるみ チェック								
判 定									

判定基準 ①すきまゲージによるチェック :表4に示した上限のすきまゲージが挿入できないので、下限のすきまゲージが挿入できること。
②ボルトのゆるみチェック :容易にゆるまないこと。

NS形継手チェックシート(φ75～φ250)

工事名		請負者	
管種・呼び径		図面No.	

①

直管受口
最大寸法
c

②

薄板ゲージ ゴム輪
実測値(X)
ライナ
b

③

d部

④

直管受口(ライナなし)
白線
矢視

⑤

直管受口(ライナ使用)
マーキング(白線)
ライナ
白線
矢視

⑥

最大寸法
c
実測値(X)

⑦

薄板ゲージ
b
ゴム輪
異形管受口

⑧

マーキング(白線)
矢視
屈曲防止リング
(X)

管 No																				
管の種類																				
略図/ライナ																				

継手 No.																				—		
清掃																					—	
受口溝(ロックリング)の確認																					—	
受口端面～ゴム輪の最大寸法確認(C)																					[1][6]	
滑 剤																					—	
受口端面～ゴム輪 間隔(b)	全周チェック																					
	①																					
	②																					
	③																					
	④																				[2][7]	
	⑤																					
	⑥																					
	⑦																					
受口端面～白線 間隔(a)	①																					
	③																				[4]	
	⑤																					
	⑦																					
ライナ位置の確認(d部)※1																					[3]	
マーキング(白線)位置の確認※2																						[5][8]
屈曲防止リングの確認※3																						[8]
判 定																						—

1 判定基準:受口端面～ゴム輪間隔(b) < 受口端面～ゴム輪の最大寸法(c)
 ※1 ライナが受口奥部に当たっている事を、4.5mmの隙間ゲージにて確認する。
 ※2 接合直後に、マーキング(白線)位置が全周にわたり受口端面の位置にあるか確認する。
 ※3 屈曲防止リングと挿し口外面に薄板ゲージが入らないこと。

2 その他: φ250mmを超えるものについては、日本ダクタイル鉄管協会等の資料を参考にすること。

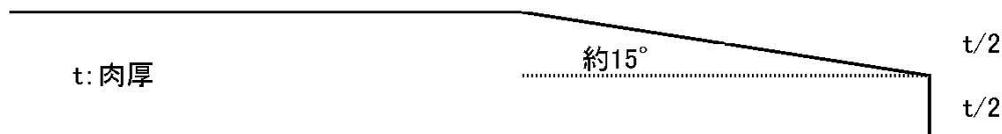
施工日		測定者		点検者	
年 月 日					

1 塩化ビニール管面取り代

(1)TS接合 糸面取り(2mm程度)

(2)RR接合

X:面取り寸法



呼び径 (mm)	RR接合面取り代 (Xmm)											
	VP				VM				VU			
	t	t/2	α°	X	t	t/2	α°	X	t	t/2	α°	X
50	4.1	2.1	14.4	8								
75	5.5	2.8	14.0	11					2.7	1.4	15.1	5
100	6.6	3.3	14.2	13					3.1	1.6	14.5	6
125	7.0	3.5	14.0	14					4.1	2.1	14.4	8
150	8.9	4.5	13.9	18					5.1	2.6	14.3	10
200	10.3	5.2	13.8	21					6.5	3.3	15.2	12
250	12.7	6.4	14.3	25					7.8	3.9	14.6	15
300	15.1	7.6	14.1	30					9.2	4.6	15.1	17
350					14.3	7.2	14.8	27	10.5	5.3	14.7	20
400					16.2	8.1	15.1	30	11.8	5.9	15.0	22
450					18.1	9.1	14.9	34	13.2	6.6	14.8	25
500					20.0	10.0	15.1	37	14.6	7.3	15.1	27
600									17.8	8.9	15.1	33

2 RR継手(VP)受口面—ゴム輪間隔標準値例(bmm)

呼び径 (mm)	K社・M社											
	標準形	離脱防止形	標準形	離脱防止形	標準形	離脱防止形	標準形	離脱防止形	標準形	離脱防止形	標準形	離脱防止形
13	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
16	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
20	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
25	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
28	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
30	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
35	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
40	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
50	17~27	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
65	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
75	19~29	25~35	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
100	24~34	31~41	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
125	19~39	29~49	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
150	24~44	32~52	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
200	33~53	46~66	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
250	39~59	55~75	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
300	47~67	67~87	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
350	54~74	72~92	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
400	49~79	72~102	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
450	57~87	81~111	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
500	61~91	85~115	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
600	67~97	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~

注)管種により継手寸法及びゴム輪の形状等が異なるので、上記以外の標準値は各メーカーに照会すること。

3 塩化ビニール管用接着剤・滑剤の標準使用量例

(1) TS接合用接着剤

単位:g/1箇所

呼び径 (mm)	K社			M社	S社	V社		
	高粘度 速乾性	低粘度 速乾性	高粘度 遅乾性					
13	0.9	0.6			0.7			
16	1.2	0.8			1.0			
20	1.7	1.1			1.5			
25	2.4	1.6			2.0			
28	2.6	1.7						
30	3.2	2.1			2.5			
35	3.5	2.3						
40	5.0	3.3			3.5			
50	7.1	4.8		5.0	5.0			
65	9.9	6.6			6.5			
75	12.0	8.1		9.0	10.0	10.0		
100	20.0	13.0		13.0	15.0	15.0		
125	30.0	20.0		20.0	20.0	20.0		
150	45.0	30.0		30.0	30.0	30.0		
200	80.0		70.0	70.0	55.0	55.0		
250	130.0		105.0	105.0	90.0	90.0		
300	180.0		150.0	150.0	125.0	125.0		
350			205.0	205.0		175.0		
400			265.0	265.0		220.0		
450			330.0	330.0		275.0		
500			410.0	410.0		350.0		
600			595.0	595.0		525.0		

(2) RR接合用滑剤

単位:g/1箇所

呼び径 (mm)	K社	M社	S社	V社				
13								
16								
20								
25								
28								
30								
35								
40			4.0					
50			5.0					
65								
75			7.0					
100	10.0	10.0	10.0	10.0				
125	15.0	15.0	15.0	15.0				
150	20.0	20.0	20.0	20.0				
200	25.0	25.0	25.0	25.0				
250	35.0	35.0	35.0	30.0				
300	50.0	50.0	50.0	50.0				
350	65.0	65.0		65.0				
400	90.0	90.0		90.0				
450	115.0	115.0		115.0				
500	140.0	140.0		140.0				
600	190.0	190.0		190.0				

4 ダクタイル鉄管ボルト標準締め付けトルク(日本ダクタイル鉄管協会)

種別	呼び径(mm)	ボルトの呼び	標準締め付けトルク (N・m)
S II	75	M16	60
	100～450	M20	100
KF	300～600	M20	100
	700～800	M24	140
	900	M30	200
K	75	M16	60
	100～600	M20	100
	700～800	M24	140
	900～2600	M30	200
NS	500～600	M20	100
	700～800	M24	140
	900～1000	M30	200
大平面座形フランジ	75～200	M16	60
	250～300	M20	90
	350～400	M22	120
	450～600	M24	260
	750～1200	M30	570
	1350～1500	M36	1200
溝形フランジ (メタルタッチの場合)	—	—	60以上

5 T型継手②値計算表 ②=80-P+I+管理基準or規格値(単位:mm)

呼び径	P寸法	I1寸法	管理基準値				規格値			
			施工管理基準P.136		②範囲		施工管理基準P.136		②範囲	
			最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小
75	84	80	11	0	87	76	16	0	92	76
100	87	80	11	0	84	73	16	0	89	73
150	88	85	11	0	88	77	16	0	93	77
200	105	100	10	0	85	75	14	0	89	75
250	114	110	10	0	86	76	14	0	90	76
300	115	110	16	0	91	75	24	0	99	75
350	130	125	16	0	91	75	24	0	99	75
400	130	125	16	0	91	75	24	0	99	75
450	130	125	16	0	91	75	24	0	99	75
500	135	130	20	0	95	75	30	0	105	75
600	140	135	20	0	95	75	30	0	105	75
700	155	150	20	0	95	75	30	0	105	75
800	160	155	20	0	95	75	30	0	105	75
900	175	170	25	0	100	75	40	0	115	75
1000	185	180	25	0	100	75	40	0	115	75
1100	200	195	25	0	100	75	40	0	115	75
1200	215	210	25	0	100	75	50	0	125	75
1350	235	230	25	0	100	75	50	0	125	75
1500	260	255	25	0	100	75	60	0	135	75
1600	275	270	25	0	100	75	70	0	145	75
1650	280	275	25	0	100	75	70	0	145	75
1800	305	300	25	0	100	75	80	0	155	75
2000	335	330	25	0	100	75	90	0	165	75

